

# 第8回 オホーツク医学大会

日 時：平成27年3月 21日(土) 14:00~17:30

場 所：北見工業大学

A101講義室                      講演会場  
コミュニケーションアトリウム      ポスター展示

主 催：北見医師会、北見医工連携研究会

後 援：北見歯科医師会、北見薬剤師会、オホーツク獣医師会

国立大学法人北見工業大学、日本赤十字北海道看護大学

東京農業大学オホーツク実学センター

# オホーツク医学大会 プログラム

総合司会 道東脳神経外科病院 院長 木村 輝雄

## 開会挨拶

北見医師会 会長 古屋 聖児

## 北見医工連賞授賞式

14:10~14:20

- ・ 北見医工連賞贈呈  
受賞者 北見工業大学 バイオ環境化学科 准教授 兼清 泰正 様
- ・ 挨拶  
北見医工連携研究会 会長 古屋 聖児（古屋泌尿器科医院 院長）
- ・ 謝辞  
北見工業大学 学長 高橋 信夫 様
- ・ 受賞者謝辞

## 北見医工連賞受賞者講演

14:20~14:40

演題名 「糖尿病の予防・管理に向けたパーソナルユース糖センサーの開発」

北見工業大学 バイオ環境化学科 准教授 兼清 泰正 様

# 一般演題 (発表7分、討議3分)

15:40~

座長 大内医院 院長 大内 博文

## 1) 医療福祉情報連携システム「北まる net」の電子お薬手帳モジュールの構築

北見市医療福祉情報連携協議会

○田頭 剛弦  
古屋 聖兒  
今野 敦  
木村 輝雄

## 2) 医療福祉情報連携システム「北まる net」の救急医療情報 Pad の構築

北見市医療福祉情報連携協議会

○田頭 剛弦  
古屋 聖兒  
今野 敦  
木村 輝雄

## 3) 救急医療情報 Pad を用いた救急活動について

北見地区消防組合

○大友 涼  
高橋 府史  
萱森 雅哉

## 4) 歯垢原因物質形成酵素 (GTase) 阻害物質の探索

北見産学医協働センター  
オホーツク圏地域食品加工技術センター

旭川市食品産業支援センター  
北見工業大学

○金澤 勉  
太田 裕一  
小林 秀彰  
中村 賀香  
住佐 太

## 5) 低密度リポタンパク質の酸化に対するヤブマメ抽出物の抑制効果

北見工業大学 生産基盤工学専攻  
北見工業大学

関西大学

北見工業大学 バイオ環境化学科

○揚立風 (Yang LiFeng)  
桐越 淳一  
関本 将吾  
山岸 喬  
福永 健治  
細見 亮太  
新井 博文

6) 自由筆記回答の自然言語処理工学的分析：構内全面禁煙に関するアンケート結果を例にして

北見工業大学・大学院情報システム工学専攻, 情報システム工学科

北見工業大学・保健管理センター

○廣瀬 明依  
宮中 大  
早川 吉彦  
辻 由美子  
本田 明

7) 黒目位置追跡による注視点推測システムの開発

北見工業大学・大学院情報システム工学専攻, 情報システム工学科

○宮中 大  
廣瀬 明依  
早川 吉彦

8) オホーツク地域における脳波関連技術の研究

北見工業大学工学部 電気電子工学科

○橋本 泰成

9) 環境省エコチル調査：北見地区リクルート結果および詳細調査の概要

日本赤十字北海道看護大学生態科学領域  
同小児看護学領域  
同母性看護学領域  
同臨床医学領域

○村林 宏  
前田 陽子  
山口 さつき  
伊藤 善也

10) ボツリヌス毒素複合体の無毒成分の構造と機能に関する研究

東京農業大学 生物産業学部 食品香粧学科 生物化学研究室

○丹羽 光一  
相根 義昌  
武藤 信吾  
宮下 慎一郎  
林 慎太郎  
渡部 俊弘

閉会挨拶

17:20~

# 抄録集

## 1) 医療福祉情報連携システム「北まる net」の電子お薬手帳モジュールの構築

北見市医療福祉情報連携協議会

○田頭 剛弦  
古屋 聖兒  
今野 敦  
木村 輝雄

### 【目的】

東日本大震災以降、医療インフラが被害を受けた際の代替ツールとして、お薬手帳（紙）の有効性が注視され活用が推進されている。しかし、患者の中には、複数の調剤薬局で発行されたお薬手帳を何冊も携帯し使い分けしている場合があり、調剤薬局間で処方情報を集約しきれず、重複薬等のチェックができないケースが発生している。また、病院・診療所と調剤薬局は、処方箋（A5 サイズの用紙）で情報連携しているが、服薬指導をする際に必要な病名等の情報は記載されていないため、薬剤師は、都度、患者から情報を収集する手間も発生している。当協議会では、重複薬のチェックや病名の参照を支援するための「電子お薬手帳」を構築したので紹介する。

### 【方法】

平成24年から稼働している医療福祉情報連携システム「北まる net」の機能拡張モジュールとして、「電子お薬手帳」を構築し、病院薬局と調剤薬局間の情報連携に関する実証実験を平成26年7月より開始した。

### 【結果】

電子お薬手帳を使用することで、病院薬剤師から薬局薬剤師へ処方経緯や服用法等のパーソナルな医療情報を提供することができた。また、禁忌や副作用情報も共有することができるため、処方・調剤時の事故防止の抑制となった。

### 【結語】

市内全域の病院・診療所、調剤薬局が同システム利用することで、調剤情報を統合的に管理でき、信の重複薬チェックが可能になることが示唆された。

## 2) 医療福祉情報連携システム「北まる net」の救急医療情報 Pad の構築

北見市医療福祉情報連携協議会

○田頭 剛弦  
古屋 聖兒  
今野 敦  
木村 輝雄

### 【目的】

救急救命士は、独居老人等の救急搬送時に搬送先を決定するための医療情報（かかりつけ医や服薬歴など）を得るために日々苦慮している。全国的には、救急医療情報キットという医療情報が記載された用紙を冷蔵庫に保管する運用を推進しているが、情報が更新されていないケースも散見される。そこで、平成24年から稼働している医療福祉情報連携システム「北まる net」に蓄積されている医療・介護情報を二次活用し、救急搬送に必要な医療情報を参照できるシステム「救急医療情報 Pad」を構築したので紹介する。

#### 【方法】

北まる net は、医療介護連携用に開発された DASCHPro システムと、社会資源等を地図上にレイヤー表示できる地理情報システム (GIS)、ユーザがカスタマイズ可能なユーザ用サーバで構成されている。ユーザ用サーバは、DASCHPro をミラーリングした FileMakerServer で構成されており、このサーバ上に救急医療情報 Pad を構築した。開発にあたっては、救急車内での利用が中心となるため携帯性と一覧性を重視し、iPad 上で稼働する FileMakerGo (i アプリ) から VPN 接続で利用でき、FileMaker の Web 格納機能を利用して、DASCH Pro の医療介護情報と GIS サーバの地理情報をマッシュアップする仕様とした。

#### 【結果】

FileMaker を利用することで、ユーザ視点での開発が可能であったため、使い勝手が良く、かつ短期間での開発が可能であった。また、システム間連携は、GetMethod 等の HTTP を利用した単純な処理のため、保守内コストで収めることができた。

#### 【結語】

実際の救急搬送の効果は、北見地区消防組合の演題で確認いただくこととして、今後の課題として、北まる net の登録者数を増加させ、人口カバー率を上げるための方策を考えたい。

### 3) 救急医療情報 Pad を用いた救急活動について

北見地区消防組合

○大友 涼  
高橋 府史  
萱森 雅哉

#### 【目的】

北見消防署西出張所救急隊では北見市医療福祉情報連携協議会と連携し、平成26年7月1日から救急医療情報 Pad (以下、情報 Pad という) を救急現場で試験運用している。

今回本年1月末までの運用状況とその効果を報告する。

#### 【方法】

平成26年7月1日から平成27年1月末までに情報 Pad 該当施設での救急要請が30件あった。その内傷病者検索を実施したものが18件、活用出来たものは7件だった。

西出張所救急隊では情報 Pad 該当の出動ごとに①検索実施・検索該当②検索実施場所 (施設) ③救急隊連携メモ・病名・入院歴④現場滞在時間 (傷病者接触～現場出発) の調査を行っている。

#### 【考察】

事前に傷病者情報を入手することで、救急隊員と施設職員との円滑な情報共有を行うことが出来た。また情報を早期に入手することで傷病者接触から現場出発までの時間短縮に繋がった。119番通報時での情報 Pad 登録傷病者という情報の入手が重要になると感じた。

#### 【結語】

情報 Pad を活用する事で情報収集がスムーズに行き、結果活動時間の短縮が可能となることがわかった。しかし現状では登録者数が少ない為、登録者数の増加及びデータの最新化等が行われれば、とても有用なシステムだと感じた。